

もの言う牧師のエッセー 第214話 「レディ・ガガの告白」

レディー・ガガが、米ラジオ番組で19歳の時にレイプされたことを告白してから約一年、「自分のすべての痛みが美しくあることに、責任を持っていきたい」とコメントしていた彼女の歩みはさらに力強く見える。約一ヶ月前、大学のキャンパス内でのレイプ被害を扱ったドキュメンタリー映画、「The Hunting Ground」のプロモーションのために、ニューヨーク市内で開かれたパネルディスカッションに出演した彼女は、自身のレイプ被害の体験について赤裸々に語った。

「7年間は、誰にも話さなかった。どう考えていいのかわからなかった。あの出来事が私の人生、私という人間を完全に壊してしまった」。いっぽうで、「その男は自分のしたことがレイプだったとは思っていませんでした」とも。さらに、「それ以来、私の体も変わってしまった。このようなことを経験すると、多くの人はその後何年も、レイプされたトラウマを再体験し続ける。これは、身体的な苦痛パターンを引き起こす引き金になる。だから多くの人が虐待やレイプによる精神的な痛みだけでなく、身体的な痛みにも苦しむことになる」と、レイプ体験は彼女の精神面だけではなく、身体面にも大きな影響をもたらした。同時に彼女は、着ていた服や態度が挑発的だったことや、“お嬢様学校”に通っていたゆえ男性に関して無知だったことなど、「自分のせいでこうなった」と自身を責め続けたとも言う。

しかし、最後にガガは、レイプや虐待など、同じような状況を経験している人々に向かって、「皆さんの痛みを心の中にしまいこんで、カウンターの上にある古いリンゴのように腐らせないで欲しい。分かるよね？ 皆でそんなゴミはさっさと捨てちゃいましょう」。 聖書には、

「私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。

それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあって新しい歩みをするためです。」ローマ人への手紙 6章 4節、

とある。これは、罪なきキリストが我らの罪を背負い、後に復活したことにより、罪人でありながら、“十字架にかからなかった”我々も十字架にかかったことになり、一切の罪が葬られ捨てられたことを表す。人に傷付けられた人や、人を傷つけた人、そのことで心に病を抱える多くの人々。しかし、恐れることはない。彼の復活を信じる者は、新しく、強く歩み始める。

